

平成 29 年度

事 業 報 告

社会福祉法人白老宏友会

指定障がい福祉サービス事業

多機能型事業所「ポプリ」

I 総括

昨年度、社会福祉法が改正され、事業運営の透明性、財務規律の強化、地域における公益的な取り組みの責務が求められることとなり、法人全体で制度改革に則し歩んできました。白老町においては、2020年の国立博物館開設に伴い、駅北側に地域活性化を目的とした白老町商業・観光振興計画が進められる中、町より事業への参画の打診を受け、法人又事業所としてどのような参画の在り方が、利用者の豊かな生活の向上や事業発展の推進を図るうえで望ましいのかを模索する一年でありました。

運営状況については、昨年度の感染症（急性胃腸炎の蔓延）を踏まえ、その対策として日常的に館内消毒及び清掃に留意すると共に、事業所全体で感染症に対する意識の向上を図るため、保健所に講師を依頼し食品衛生講習会を実施しました。また、緊急時の対応として全職員が救急救命講習を受講し、心肺蘇生法やAEDの取り扱いについて学習しました。研修については、サポーターズカレッジ（オンライン職員研修）を活用し研鑽を深めた他、必要な外部研修への参加を行ってきました。その他については、特段大きな事故もなく充実したサービス提供と適正な運営を行うことが出来ました。

生活介護事業については、引き続き療育活動、創作活動、レクリエーション、生産活動など、個々の利用者の特性や体力面を考慮し、活動内容の創意工夫を凝らしながら充足した生活となるよう取り組んできました。地域交流や健康促進を目的に、白老町が主催する健康マラソンファミリーウォーキングに参加しました。生産活動においては、地元食品企業より新たな請負作業（番重拭き作業）の依頼を受け実施しました。既存の請負作業については、引き続き同法人の『みらいえ』と連携を図り積極的に取り組んできました。授産活動の売上については、自家焙煎珈琲豆はじめ、全体の売上の落ち込みが見られ、前年度に比べ約100万円減収しています。

医療体制については、11月よりポプリ専従の看護師を配置し、利用者の健康管理や安全面、緊急時の対応に配慮してきました。また、地域生活支援センターとの連携を図り、定期的なケース会議や情報交換を密にし、安心して充実した生活を送ることができるよう取り組んできました。

就労事業については、昨年度『ななかまど』は25周年を迎え、長年に亘り店舗を支えてくれた沢山のお客様が集い、盛大に周年記念セールを終えることが出来ました。

総括的には、売上の向上、工賃財源の確保、安定経営を目的とし、パン、菓子、餅などの製品開発の研鑽を行うと共に、引き続き民間企業より、経営、店舗づくり、技術指導を受け、売上の向上と安定を目指してきました。また、国立博物館開設に向け、継続的に土産製品の研鑽を進めてきました。

新たな事業として、7月より施設外就労として有限会社フォーレ白老（しいたけ栽培作業）にて活動を開始しました。12月には、横浜市で開催された全国チャレンジドカップのパン部門において、利用者、職員の努力が実り、本選出場4度目にして優勝という過去最高の功績を収めることができました。

就労活動収入においては、札幌外部販売の効果もあり、週末 地方からの集客が増えてき

(いきいき4・6清掃業務)が施設外就労として開始されました。企業先での活動であるため、安全面に留意し、事故防止に努めながら民間企業内での経験を通じて規律性や自立心を養っていきけるよう支援していきました。

■食品事業

平成29年度については、引き続き地元消費者に愛される店舗づくりを課題に、低価格で美味しく付加価値の高い製品開発に視点を置き、消費者を飽きさせない店舗づくりを意識し、絶えず創意工夫を凝らし季節に因んだ企画、製品づくりを行いました。また、将来的に安定した事業運営に係る収入と工賃の財源を定着させ、ゆるぎない事業体系を確立してつため、就労全体で共通課題を持ち、協力体制の中取り組んできました。

ポプリ内パン工場については、引き続きパン・菓子・餅製品の製造を行い、店頭販売や卸し販売(病院・学校給食・老人ホーム・保育園等)、外部販売(丸井今井きたキッチン、どさんこプラザ)を行ってきました。その中で特に、宣伝活動の一環として取り組んできた外部販売については、販売開始時間前から50名以上のお客様が並んで頂けるようになり徐々に定着してきましたので、更なる売上向上を目指して新札幌きたキッチンや丸井今井三越デパートの催事にも出店し、販路拡大を行いました。

技術面においては、安定的な生産供給を図る為、製パン講習会の参加や民間企業を招き、菓子製品の見直しと付加価値が高く安定した生産供給が出来るよう技術指導を受けました。

施設整備では、作業の効率化を図り、お客様に安心して安全な商品を提供していくため、包餡機と金属探知機を導入しました。

ななかまどについては、引き続き町内をはじめ町外のお客様に喜んでもらえるよう絶えず製品の見直しや新製品の開発、季節に合わせたイベントの開催、日曜日営業を行ってきました。

2年に一度開催される「チャレンジドカップ」に応募し、全国47チームから決勝大会に選ばれ、3名の利用者が横浜市の本選に出場し、北海道チーム初の優勝を成し遂げる事ができました。この結果から、出場された3名はもとより、食品事業全体の利用者の励みと自信に繋がる事が出来ました。25周年記念セールでは、地域のお客様に日頃の感謝を込めて、セールで販売する新作パンの試食会を開催した他、オープン当初に販売されたヨモギあんぱん・クロワッサン・ロールパンがセットになった25周年記念パンや、地元の食材を使用した新作商品を感謝価格で還元し、地域のお客様に喜んでもらえる事が出来ました。その他については、民間企業を招いて店舗運営やデザイン等に関するアドバイスを頂き、札幌市立大学デザイン学部の学生さんに一貫性のあるパッケージデザインを依頼し、レジ袋、包装紙、手提袋、シールを一新しました。

地域情勢を踏まえ売り上げの向上と集客率向上を課題に取り組んできた札幌販売の成果もあり、週末には町外のお客様が増加し、その定着が見られるようになりました。

こうした取り組みから今年度においても年間の店舗利用集客数が約4万人まで達成し、一日平均120人のお客様が来店していただけるようになりました。

以上の事を踏まえ、将来的に利用者が安心して『働ける環境を確立』し、豊かな生活を営むための『工賃財源の確保』を保持していくためにも、民間企業同様の視点を持ち、時代の流れを絶えず察知しながら新しい物に目を向けた事業運営と危機感や探求心を持ちながら取り組む姿勢が不可欠であると考えます。30年度については、以上の事を課題に置き、更なる発展

るため、地域との繋がりを大切にし、評価、信用性を第一に意識するなど、業務上における事故防止などの安全に配慮し、日常業務に努めました。また、業務を通じて利用者個人が社会性や自立心を養い、作業技術の向上を図っていくため、月一回の支援者会議を行うなど、日常的に支援、指導を実施しました。

②（有）フォーレ白老

菌床椎茸の浸水棚上げ作業を利用者6～7名と支援員2名体制で行ってきました。7月1日～12月中旬までは1日の作業として行ってきましたが、利用者の体力面と既存事業の体制に影響があり平成30年1月より午前中のみの作業となりました。企業先での活動の為、規律ある行動（挨拶や決まり等）を守り、企業側からの指示に従って活動してきました。また、作業場が滑りやすく狭いため、安全面に留意し、事故防止に努めながら社会性や自立心を持って行動していけるよう支援してきました。

Ⅲ、生活介護事業

個々の障がい特性やニーズに応じて活動を提供し、安定した日常生活の構築を目指し支援を実施しています。生産活動では、珈琲豆焙煎・野草茶製造作業、下請け作業等を行う中で過度な負担とならないよう創作・外出・余暇・療育活動を取り入れ、作業意欲の維持や向上、気分転換を図り、安心して活動が行える様に支援をしています。また、療育班を設けて活動の環境を整え、軽運動（電動ウォーカー、エアロバイク等）・療育を主とした活動を行い情緒の安定を目指しました。医療体制では、11月からポプリ専従の看護師を配置し、利用者の健康管理や安全面、緊急時の対応に配慮しています。

【生産活動】

■自家焙煎珈琲

今年度はななかまど店舗での販売実績が落ち込み、地域顧客も固定されてきた状況が見られ、総額約150万円（海の別邸ふる川・喫茶売上も含め）の売り上げになりました。平成21年度より開始された事業である「元気まちコーヒー応援チケット」においては、今年度で9年目を迎え、12月の障がい者週間に開催された進呈式では、登録団体の10団体に96,500円を贈呈し、地域とのつながりへ役立てることが出来ました。取引先においては、心のリゾート海の別邸ふる川と月平均約35,000円と安定した取引を継続しています。又、札幌での販売では、どさんこプラザ・丸井今井きたキッチンにて販売を継続して行い、更なる顧客の確保と売上に努めました。

■野草茶

クマササ茶は、年間800袋を販売しています。カキドオシ茶についても、近年糖尿病に効果が見られるのではないかとする事で注目が集まり固定の顧客が付き、年間700袋を販売しています。エント茶については、ななかまど店舗での販売やアイヌ民族博物館と定期的な取引につながりました。

■フードパックラベル貼り作業

ダイエットクック白老より委託を受けて、フードパックラベル貼り作業・ポリ袋ラベル貼り作業を「みらいえ」と作業分担をして行っています。今年度は安定した作業委託があり、年間

VIII 利用関係状況報告

就労活動	収支	総収入	79,029,547 円 + 積立取崩 1,376,520 円 + 繰入金	5,724,000 円
		(就労B	73,974,763 円 + 生活介護 5,054,784 円)	
		総支出	79,956,363 円 + 固定資産 6,900,520 円 + 年度末積立	0 円
工賃支払い総額		22,571,650 円	(前年度実績:	21,578,959 円)
就労B事業	月額平均額	1名	35,563 円	生活介護
	月額平均額	1名	7,076 円	

<定員構成>

*30年3月31日現在

	定員	契約数	男	女	入所者	退所者	備考
生活介護	20	26	18	8	2	1	
就労継続支援B	40	48	34	14	3	1	
合計	60	74	52	22	5	2	

<年齢構成>

	10代	20代	30代	40代	50代	60歳以上
生活介護	2	10	7	4	2	1
就労B	2	9	9	21	5	2
合計	4	19	16	25	7	3
最高齢者 68歳 / 最年少者 18歳 / 平均 37.86歳						

<在籍年数>

入所年度	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12
生活介護	2	1	3	3	1	1	1	2	1	1	0	2	1	0	0	0	2	5
就労B	2	2	1	0	3	0	2	1	4	0	1	0	2	3	1	1	12	13
合計	4	3	4	3	4	1	3	3	5	1	1	2	3	3	1	1	14	18

<障害区分>

療育手帳	A	B	なし	精神	身障
生活介護	19	6	1	(2)	(6)
就労B	12	36	0	(0)	(5)
合計	31	42	1	0	(11)

区分	2	3	4	5	6
生活介護	0	7	9	8	2
就労B					
合計	0	7	9	8	2

<居住別>

	自宅	GH
生活介護	15	11
就労B	24	24
合計	39	35

<出身地別>

	白老町	登別市	苫小牧	札幌市	室蘭市	北広島市	千歳市	江別市	伊達市	三笠市	浦河町
生活介護	16	1	7	1	0	0	0	0	0	1	0
就労B	21	6	8	2	5	1	1	2	1	0	1
合計	37	7	15	3	5	1	1	2	1	1	1

10月	各種会議 支援計画モニタリング会議 避難訓練 胆振総合振興局集団指導	生) 料理教室・プール・カラオケ・映画鑑賞・創作活動・料理教室・秋季運動会 就) 苫小牧港イベント販売 きたきッチン販売	利用者全体会 利用者誕生会 るびなず研修 救命救急講習 サビ管研修・ワグアワハ・ダンス等
11月	各種会議 会計事務所任意監査 インフルエンザ予防接種	生) プール・カラオケ・映画鑑賞・料理教室・文化祭 就) どさんこプラザ・きたきッチン販売 白老中職場体験受入	利用者全体会 利用者誕生会 るびなず研修・キャリアアップ研修・メンタルヘルス研修 加齢化研修・ブレンディング研修・労務講習会 保健所衛生講習会 年末調整事務説明会
12月	各種会議 消防設備点検 法人監事監査 年末挨拶回り 自動車総連送迎車輛寄贈	各部署忘年会企画 利用者冬期手当て支給 元氣町応援コーヒーチケット還元 プール・カラオケ・映画鑑賞 なななかまどクリスマスセール お歳暮餅・年末餅製造販売 どさんこプラザ・地下歩行空間販売	チャレンジド・カップ参加 優勝 利用者全体会 利用者誕生会 るびなず研修 経理担当者研修
1月	各種会議 年頭所感 会計事務所任意監査 なななかまど避難訓練	保護者・仲間の会合同新年会 生) プール・カラオケ・映画鑑賞・料理教室 就) なななかまど初売り 札幌三越販売・きたきッチン販売	利用者全体会 利用者誕生会
2月	各種会議 支援計画モニタリング会議 三者面談	生) プール・カラオケ・料理教室・映画鑑賞 就) バレンタイン企画 なななかまどバレンタインフェア どさんこプラザ・きたきッチン販売	利用者全体会 利用者誕生会 仲間の会節分・バレンタイン るびなず研修 法人研修研究発表会
3月	各種会議 会計事務所巡回監査 法人内部監査 三者面談実施、利用契約	各種見積提出 たな卸し 生) プール・カラオケ・料理教室・映画鑑賞 就) 冬季レクリエーション・ホワイトデー企画 どさんこプラザ・きたきッチン	利用者全体会 利用者誕生会 仲間の会ホワイトデー
4月		利用者 29年度期末手当支給	